

市川市立図書館のメールマガジンをお送りいたします。

「メールでのサービス」で配信をご希望された方へお送りしています。

□ ■ □ -----
■ □ ■ 市川市立図書館メールマガジン 第 116 号 2017.1.5
□ ■ □ -----

明けましておめでとうございます。恒例行事となった新春企画「福袋」を、今年は新たに行徳図書館も加えて実施いたします。図書館員が色々なテーマで本を選んで詰めた「本の福袋」、普段は手に取らない本にふれる機会になるように・・・、と願いを込めて作成しました。

図書館は今日から開館です。本年もどうぞよろしく願いいたします。

■ ■ 新春福袋のお知らせ □ -----

◆ 「福袋」を借りてみませんか？

○ 毎年ご好評をいただいている「福袋」を、今年も実施します！

福袋には、それぞれテーマのシールが貼ってあります。お好みの福袋を選んでお借りください。

どんな本が入っているかは借りてからの楽しみ！（本のプレゼントではありません。貸出期間は 2 週間です）

★ 中央図書館／こどもとしょかん

<日時> 1月 5日（木）～

<内容> 一般（大人）向け・中高生向け・子ども向け

★ 行徳図書館

<日時> 1月 5日（木）～

<内容> 一般（大人）向け・中高生向け・子ども向け

★ 信篤図書館

<日時> 1月 5日（木）～

<内容> 一般向け・子ども向け

福袋はなくなり次第、終了となります。お早目にどうぞ！

◆「おんな城主 直虎」関連講座のご案内

平成 29 年 NHK 大河ドラマ「おんな城主 直虎」放映にあわせ、関連の講座を行います。講師は『おんな領主井伊直虎』（KADOKAWA 2016）の著者で市内在住の渡邊大門氏。直虎の調査研究に際し、図書館をどのように利用してきたかなど、その有効な活用方法についてもお話しいただきます。

<日時> 1 月 27 日（金）14 時～16 時

<場所> 生涯学習センター（メディアパーク市川）地下集会室

<講師> 渡邊大門氏（株式会社歴史と文化の研究所代表）

<募集人員> 26 名 *申し込み多数の場合は抽選になります。

<申込> 中央図書館（〒272-0015 市川市鬼高 1-1-4）に往復はがきで応募

*往面に住所・氏名・電話番号及び返信用の宛先をご記入ください。

<締切> 1 月 10 日（火）必着

■ ■ テーマ展示 □ -----

◆「いろとり鳥（どり）」（中央図書館／1～2 月）

新たな年を迎えていよいよ冬本番です。本年、平成 29 年は酉年です。

「とり」といって、みなさん、まず思い浮かぶのはニワトリでしょうか。けれども、改めてあたりを見回してみると、街中にも公園にも庭先にもいろいろな種類の鳥がいます。海辺には海辺の、山には山の鳥がいますし、おうちでペットとして鳥を飼っている方もいらっしゃるでしょう。

鳥たちは普段思う以上に私たちにとって身近な存在なのです。と同時に、そんな身近な存在でありながら、卵を産み、なにより翼をもって空を飛ぶという、私たちにはない力をもった不思議な存在でもあります。

大昔から私たちの暮らしや文化に深く関わっている鳥たちについて、その生態や人との関係、もちろん美味しい食し方まで、広く、いろとりどりの本を選んでみました。

<http://www.city.ichikawa.lg.jp/library/info/1215.html>

○展示の本からいくつかをご紹介します。

◇『リボン』小川糸／著（ポプラ社 2013）

大の愛鳥家のおばあちゃんは、ある時、親鳥から見捨てられた鳥の卵を見つけ、ふわふわの髪の中で温めはじめました。孫のひばりは、小学校

から帰ると、おばあちゃんの助手として卵を守り、雛を孵そうと奮闘します。無事に孵った小さな雛は、リボンと名付けられ、おばあちゃんとひばりにとってかけがえのない存在になりました。けれどもやがて、リボンは空を目指して飛び立ってしまうのです。

一羽のオカメインコがいろいろな人と出会い、それぞれの物語を紡いでいきます。

姉妹篇で鳥側の視点から見た『つばさのおくりもの』もあります。

◇『アレックスと私』アイリーン・M. ペパーバーグ／著 佐柳信男／訳（幻冬舎 2010）

2007年9月11日、「ニューヨーク・タイムズ」をはじめとする主要なメディアが一羽のオウム（オウム科の鳥）の死を一斉に伝えました。オウムの名前は「アレックス」。ペパーバーグ博士による鳥の認知能力やコミュニケーション能力の研究によって、一躍有名になったオウムでした。ペパーバーグ博士は、女性研究者がまだ少なく、動物に思考する能力がないことこそ科学的に「正当」だとされた時代に、アレックスと共に研究を始め、その研究結果は、知能が低いと思われていた鳥の脳に対する人々の考え方を覆すものでした。

研究の原点となる博士の子ども時代から、アレックスの死までを記録した本です。

◇『身近な鳥の生活図鑑』三上修／著（筑摩書房 2015）

「鳥類の観察」というと、大きな双眼鏡をかかえて、大自然の中に入って観察する、というイメージを抱きがちですが、実際は、私たちの住む街中には、身近に生活を観察できる鳥たちがたくさん住んでいます。この本では、スズメ、ハト、カラスの3種類の鳥を中心に、街で見かける鳥たちの生態を、語りかけるような文体で、分かりやすく解説しています。その内容は単なる生態にとどまらず、人とのかかわりあいや文化におよび、最終章では、都市での人と鳥との関係についての提案が示されており、そこには冷静でいてかつ温かい、著者の視点がにじみでています。

.....

◇メールマガジンの登録・解除はこちら

<https://opac.city.ichikawa.chiba.jp/winj/opac/top.do>

◇このメールは自動配信されています。このアドレスに返信いただいても内容の確認およびご返答ができません。ご了承ください。

市川市中央図書館

〒272-0015 千葉県市川市鬼高 1-1-4 047-320-3346
